

シリーズ  
教育  
No.21

# 教育の窓



## 小さな学校の大きな成果 潮見小学校公表会

10月24日午後、潮見小学校の公表会が実施されました。真摯に学ぶ姿、明るく堂々と話す態度、全校で取り組む一輪車演技。思いやりがあふれる態度と自信に満ちた高度な演技に、参観した多くの教職員や関係者が感嘆の声を上げました。公表会とは、八百津町教育委員会が指定した学校において、町の教育指針ならびに学校の教育目標に沿って教育実践を公表する会です。八百津町は全ての学校が「明るく潤いのある学校づくり」を目指し、児童生徒に生きる力をつけることを目指しています。潮見小学校は完全複式学級ですが、児童数が少ないことを大きな利点ととらえた教育で特筆すべき成果を上げています。

### 1 学ぶ力が育ちます



一般的に、児童が少ないと学習が成立しないのではないかと、教師の指示待ちなど受け身の学習姿勢になると想像されています。全く逆です。児童数が少ないからこそ厳しい学習姿勢が生まれ、一人でも何人分かの役割を果たす学習活動となります。また、多くの教職員が入り替わる体制も組まれており、豊かな学びが確保され、自分の考えを豊かに表現できるようになりました。コミュニケーション能力がついてきたのです。複式授業では「自学」といって、自分で考え自分で学習を進めていく能力が一般の学校より育つことが特徴です。さらにICT等教育機器を、児童が学びの道具として活用している姿は参観の教職員が感嘆する場面です。

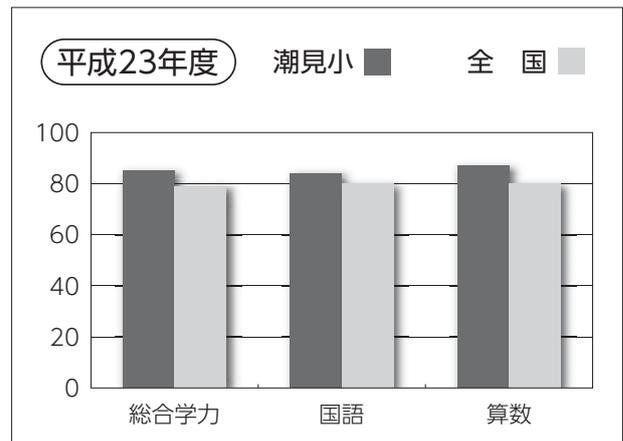
### 2 豊かな心が育っています

今年の国体炬火リレーで、一輪車による演技が話題となりました。潮見小学校では、県でトップクラスの一輪車による演技を訓練しています。この演技こそ、上級生が下級生、仲間との思いやりが育つ豊かな体験活動となっています。一輪車については世

界トップクラスの方のご指導をいただき質の高いハードルをあげた演技に挑戦しています。



### 3 全国に比して高い学力となっています



### 少人数教育から生まれる効果

一般的には、学習内容がよく理解され一人ひとりに学力が保証されることが期待されます。教科の基礎・基本の習得は当然ですが、自らの考えを堂々と話すとか、物事を多面的に追究するという、幅広く豊かに学ぶ学力です。つまり「自ら学ぶ力」が生まれてくるのです。少人数教育とはいったい何人くらいの人数なのでしょう。欧米では一教室で10数人となっていますが、これを少人数と名称がつけられているわけではありません。日本では40人学級が基本ですので、それより少ない数での指導の場で、少人数指導と呼ぶことがあります。人数が少なれば当然行き届いた指導が可能です。しかし、いくら人数が少なくても優れた指導法や環境が与えられていない場合には、効果を得ることができません。町では支援員や県の非常勤講師を活用し、人数の多い学級は2教室や3教室に分け(習熟度別が多い)学力の定着をはかっています。東部地区の学校では1学級の人数が少ないので、常時少人数指導となっており一層効果を高めています。